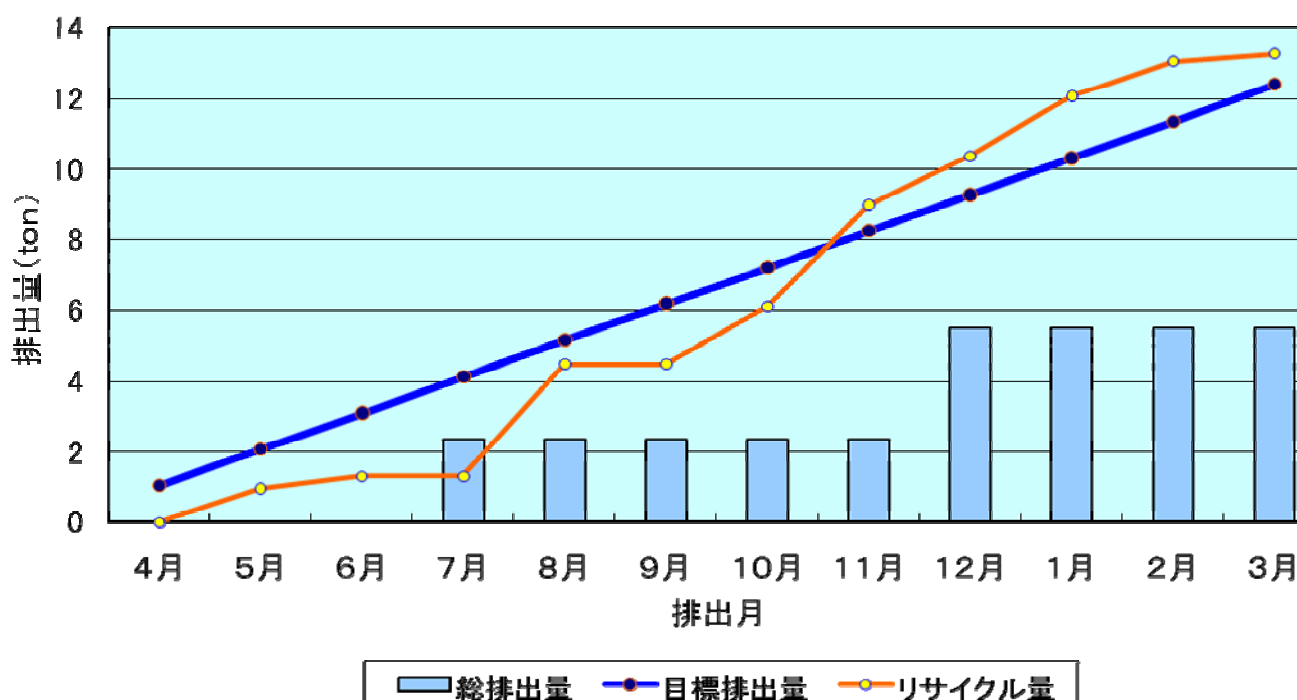


2007年度実績値が29.7%と目標を大きく超える削減が達成出来ました。今年度環境目的を40%と上方修正して、削減に取り組みましたが、生産数量の変化・顧客要求の多種多様化等の要因もあり-14%の実績と前年比+15%となりました。次年度の目的・目標に再度設定し、今年度増加分を削減していく予定です。

4) -2-2 埋立て処理廃棄物のリサイクル

廃プラスチックとしては、原鉱石のフレコン・製品歩留まり外のウレタンが主であります。この2項目については製品製造上やむを得ない廃棄物であり、削減は困難なため全量リサイクル(ヒートリサイクル)として処理しています。それ以外のその他の廃棄物(ゴム類・ガラス・ポリ容器・アルミ箔・廃配管ほか)は依然として埋立として排出しており、今年度は「**2005年度その他の廃棄物排出量の45%をリサイクルする**」を目標に掲げ、リサイクル用途を模索してリサイクルを推進し、処分場枯渇の防止を図りました。

その他の廃棄物排出量推移
2007年4月～2008年3月

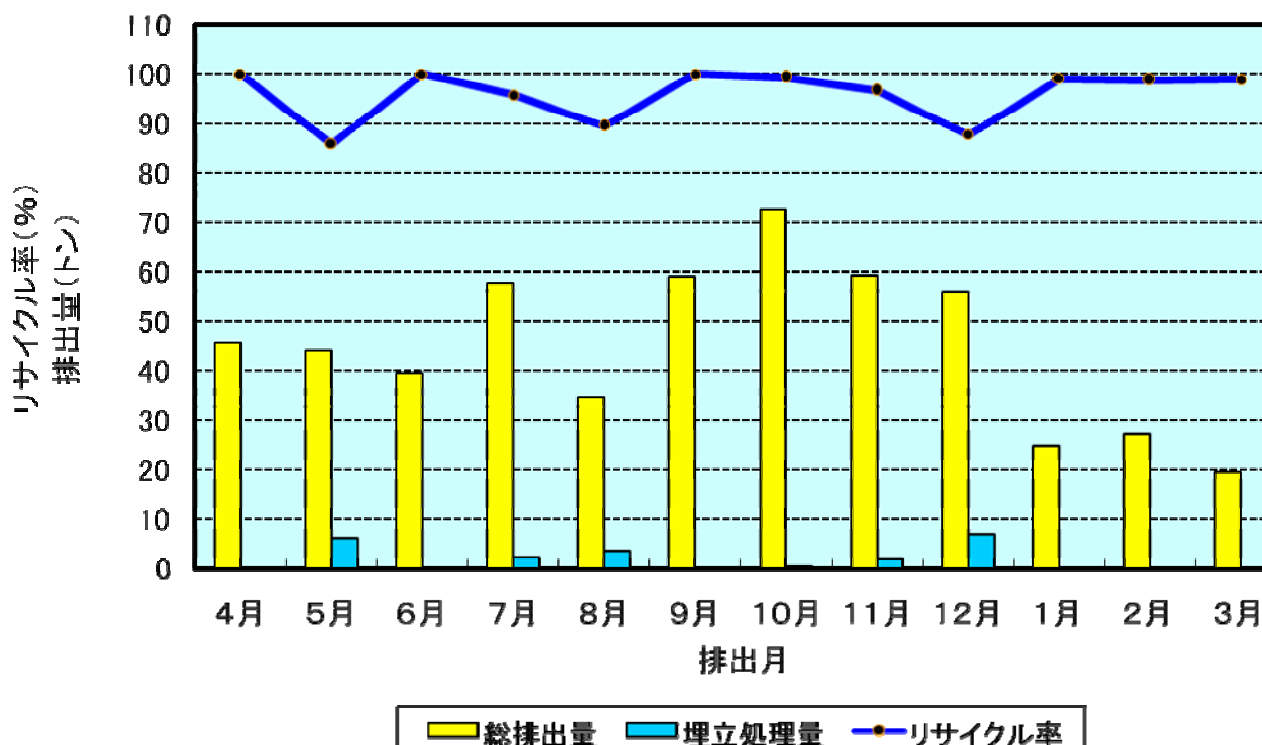


排出削減の啓発と教育の結果により大幅な削減ができました。塩ビ・ガラス・ゴムプラスチックについては、リサイクル用途も見つけることが出来、目標を大幅に達成致しました。今後も、リサイクル用途の拡大を検討し、処分場の圧迫に対して廃棄物の埋立て量を削減していく所存です。

4) -2-3 産業廃棄物ゼロエミッションへの挑戦

当社の製造活動を通じて発生する産業廃棄物(洗浄廃液埋立て処理廃棄物を含む)について、将来のゼロエミッションへの挑戦の第一歩として今年度は、「**産業廃棄物の年度排出量の95%をリサイクルする**」を目標に掲げ、リサイクル用途を模索してリサイクルを推進し、処分場枯渇の防止を図りました。

産業廃棄物リサイクル率推移
2007年4月～2008年3月



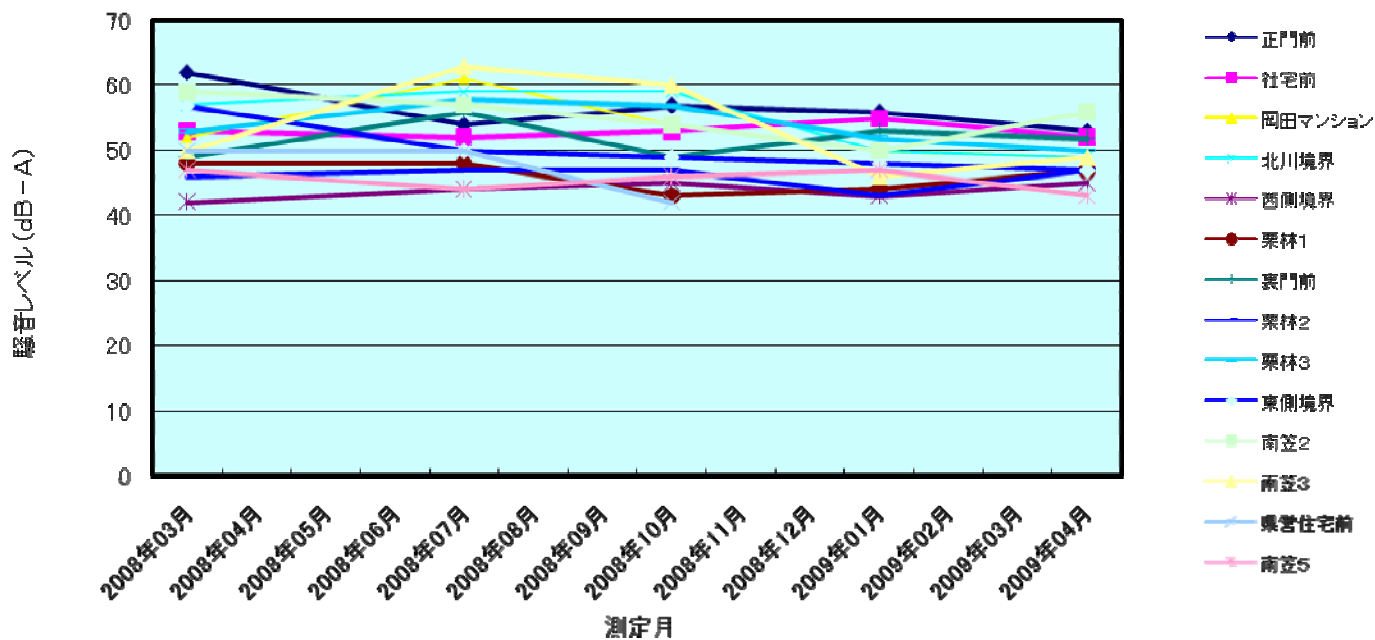
月平均95.94%のリサイクル率を達成し、今年度目標(95%)を超えたが、月毎の変動が大きく目標を下回る月もあることから、今後は平均したリサイクル率が出せるよう検討をし、さらにリサイクル率を高めていくよう努力していきます。

4) - 3 騒音の低減



今年度も、敷地境界における騒音レベルを基準値内に維持することとし、従業員の環境改善提案による廃缶置場の外壁トタンの老朽化による騒音防止を目的とした張り替え等細かな対策を実施した。又、年に4回騒音レベルを測定し、結果は、自主規制値を十分クリアしている。

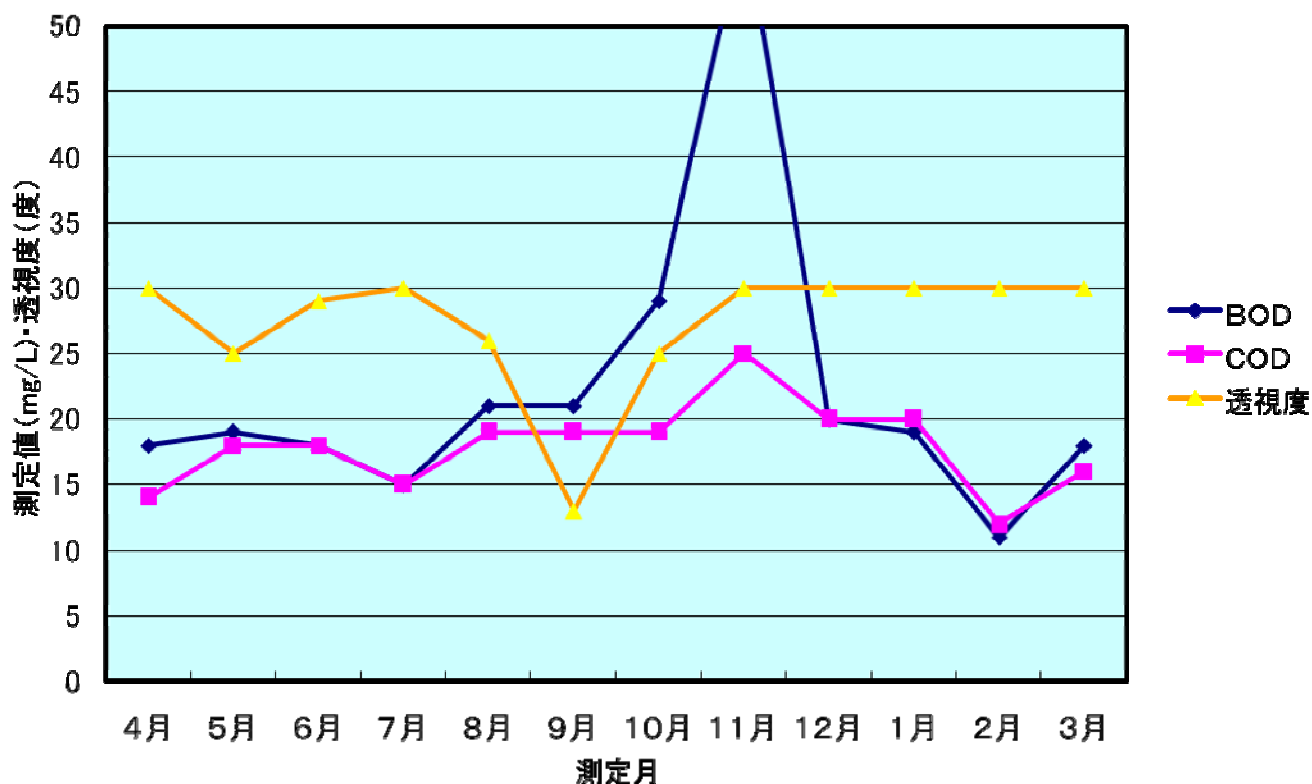
騒音測定結果(平成20年度)



4) - 4 水質汚染物質の排出削減

環境方針にもあるよう、母なる琵琶湖の水質を美しく保持するために、水質汚染物質を放出しないよう日夜監視をし、又、定期測定も実施しながら水質改善に取り組んでおります。

水質監視結果(平成19年度)



毎月に2回の定期測定を行い、流出排水を監視しておりますが、昨年10月において設備の操作ミスにおける規制値オーバーを観測しましたが、原因の追及と対応を環境保全課にも報告し、対応の結果、通常の状態に戻りました。この時期を除き全ての測定に於いて自主規制値及び条例規制値をクリアしており、最近では透視度も上昇して「きれいな水を琵琶湖に」という環境方針の想いが周知され、その効果として実を結んできたと思います。

5. 環境との調和

工場周囲近隣の環境整備を実施し、周辺環境の改善に努め
周辺自治会等との連携をとりコミュニケーションを図りました。



緑地化し、整備した工場の南境界



緑地化し、整備した工場の北境界

7月度には、県の環境週間行事(琵琶湖の日)に賛同し工場周辺の溝清掃と草刈りを実施した。夏期休暇・ゴールデンウィーク前には工場周辺の草刈りを実施しました。



びわ湖の日協賛としての工場内溝掃除の様子



工場前道路の草刈りの様子



清掃された工場正門前